

ダイバーシティ推進委員会 若手研究者・学生のための第4回ランチオンミーティング開催報告

ダイバーシティ推進委員会 藤本清彦

2016年3月27日、名古屋大学での第66回大会初日に名古屋大学全学教育棟 S1X 講義室でダイバーシティ推進委員会が主催するランチオンミーティングを開催しました。ダイバーシティ推進委員会は、2011年に男女共同参画委員会として発足した委員会です。その後、2013年にダイバーシティ推進委員会として新たにスタートし、多様な立場の方々の多様な形での学会参加の促進を図るための活動を行っています。ランチオンミーティングはそのような活動の中の一つで、第63回大会で森林学会との共同企画で初めて開催して以来、大会時に開催しています。4回目の今回は、「若手研究者・学生のためのランチオンミーティング」と題し、本学会男女共同参画担当参事の中山榮子氏からの基調講演の後、大建工業株式会社の敦賀舞氏と住友林業株式会社の中川麗美氏に話題提供をいただきました。

中山榮子氏（日本木材学会男女共同参画担当参事、昭和女子大学教授）からは、「202030→203050の中で木材学会ができること」と題する講演がありました。「202030」とは、社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標のことであり、「203050」とは、2030年までに完全な男女平等な社会が実現することです。中山氏からは、日本の管理的職業従事者に占める女性割合が諸外国に比べて低いこと、研究者に占める女性の割合がEU諸国やアメリカ、ロシアなどの主要国に比べて低いこと、女性研究者が少ない理由として考えることが男女で異なっていることなどが豊富なデータとともに紹介されました。そのデータの中には、木材学会は学生会員に占める女性比率が30%を超えているのに対し、一般会員では10%に満たないというものもありました。これには新しい女性学生会員が増えても全体に占める割合はすぐには上昇しないという事情もあると思いますが、女性の学生会員が社会人になっても学会を続けやすい体制作りが必要であると感じました。木材学会はこれまでもダイバーシティ推進のためにいくつかの取り組みを行ってきましたが、これからも学会が女性に対して様々な機会を与える取り組みが必要であると中山氏は述べていました。

日本木材学会 ダイバーシティ推進委員会
若手研究者・学生のための
第4回ランチオンミーティング

2016年3月27日(日)
12:00~13:00
名古屋大学全学教育棟
S1X講義室

ダイバーシティ推進委員会は多様な立場の方の学会参加を応援する委員会です。今回のランチオンミーティングでは、今後学会として何ができるかを考えるとともに、企業における取り組み事例としてご紹介いたします。特に学生会員の方には興味深い内容となると思います。お昼休みの気楽なミーティングです。ぜひご参加ください！

●プログラム●
(司会) 藤本清彦 (ダイバーシティ推進委員、森林総合研究所)

基調講演
中山榮子氏
(昭和女子大学教授 日本木材学会男女共同参画担当参事)
「202030→203050の中で木材学会ができること」

軽食と飲物を
用意して
お待ちしております
(無料です)

話題提供
1. 敦賀舞氏 (大建工業株式会社 総務人事部 人材開発センター)
「いきいきと活躍できる職場へ！」
2. 中川麗美氏 (住友林業株式会社 筑波研究所)
「民間企業の研究という仕事」

主催：日本木材学会、ダイバーシティ推進委員会
(協賛：住友林業(株)、大建工業(株))
後援：日本木材学会、男女共同参画学術会議

図1. 会告知らし

敦賀舞氏(大建工業株式会社総務人事部人材開発センター)からは、「いきいきと活躍できる職場へ」について話をいただきました。敦賀氏は、バリバリ働くキャリアウーマンになりたいという思いで就職活動するうちに大建工業と出会いました。当時の大建工業は男性社会だったそうですが、大建工業の方からはこれから一緒に変えていこうと言われたそうです。現在、敦賀氏は女性活躍推進プロジェクトのメンバーになって、女性が働ける環境の整備などを行っています。その中で、「意識改革」、「精度設計」、「能力・スキル向上」の3つを課題として挙げ、女性従業員の制服撤廃や男性管理職を対象とした研修、女性従業員を対象としたスキルアップ研修などに取り組んでいます。敦賀氏は、このような取り組みの中で、会社が変わってきたな、変えられるんだなということを実感しているようです。また、ミーティングに参加している学生へ、「今の状況も大事だけど、変えられるんだという未来も見て会社を検討してほしい。」というメッセージがありました。

中川麗美氏(住友林業株式会社筑波研究所)からは、「民間企業の研究という仕事」について話していただきました。最初に住友や住友林業の歴史についての話があり、その中で、銅山で木材が多用され森の荒廃が進んだため、1850年には植林を開始し、1894年には大造林計画に着手したことが紹介されました。次に、住友林業筑波研究所の話がありました。筑波研究所では資源グループ、材料グループ、建築住まいグループの3グループで多くの研究を実施しているそうです。今回はその中から、名木・貴重木の増殖について紹介していただきました。元々は植林用の苗木を確保するための技術だったそうですが、1998年には世界で初めてラワンの組織培養に成功するなど大きな成果を上げています。最近でも、北野天満宮(京都)のご神木の梅の組織培養や陸前高田の希望の一本松の組織培養などによる後継樹の育成など、全国各地の名木・貴重木の増殖に取り組んでいます。住友林業は2015年度には東証に上場する企業の中で女性活躍推進に優れた企業である「なでしこ銘柄」に選ばれています。中川氏も住友林業は男女の差別がないと強くおっしゃっていました。



図2. 会場の様子

今回のミーティングには、これから就職を考えていく学生など50名以上の方に参加いただき、大盛況となりました。参加者には無料で軽食(天むす)と飲み物をお渡ししたのですが、天むすを用意していただいた協賛2社にこの場を借りて御礼申し上げます。また、開催にあたっては関係各所に大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

今回のミーティングには、これから就職を考えていく学生など50名以上の方に参加いただき、大盛況となりました。参加者には無料で軽食(天むす)と飲み物をお渡ししたのですが、天むすを用意していただいた協賛2社にこの場を借りて御礼申し上げます。また、開催にあたっては関係各所に大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

次回の大会時にもランcheonミーティングを開催したいと考えています。来年も多くの皆さんの参加を心よりお待ちしております。